

農林水産技術会議事務局菅家研究調整課長が研究成果等を視察

企画管理部 企画連携室長 塩野隆弘

7月22日(金)、農林水産省農林水産技術会議事務局の菅家研究調整課長が農村工学研究部門を訪問し、ため池防災関連の研究成果を視察されました。

はじめに、山本部門長が農村工学研究部門の概要として使命や機能、役割などを紹介しました。次に、地域防災ユニットの吉迫ユニット長が、ため池データベース(DB)ハザードマップと熊本地震対応について説明しました。ため池DBハザードマップは、4つの機能(ため池台帳管理機能、気象情報閲覧機能、簡易氾濫解析機能、防災情報配信機能)を持つシステムで、当部門で試験運用が行なわれています。説明では、ため池DBハザードマップを用いた氾濫解析のデモンストレーションを行なうとともに、熊本地震の災害支援対応における活用状況を説明しました。最後に、土構造物ユニットの堀ユニット長が、内閣府が推進する「SIP 防災」において開発を進めているため池防災支援システムについて説明しました。本システムは、豪雨・地震時のため池決壊と下流被害の危険度をリアルタイムで予測・表示し、それらの被害を防止するための情報を提供するシステムです。説明では、インターネット接続されているサーバーにアクセスして、ため池位置や決壊予測結果を表示するなどのデモンストレーションを行ないました。

菅家研究調整課長からはため池災害及び研究成果内容に係る質問が出されるとともに、ため池防災に関する理解が深まったとの発言がありました。この視察は、菅家研究調整課長に当部門の研究活動を理解していただく貴重な機会となりました。



菅家研究調整課長視察の様子